

研究拠点形成事業
平成 27 年度 実施報告書
B. アジア・アフリカ学術基盤形成型

1. 拠点機関

日本側拠点機関:	早稲田大学
(カンボジア) 拠点機関:	プノンペン王立芸術大学
(ベトナム) 拠点機関:	フエ大学
(ラオス) 拠点機関:	ラオス国立大学
(タイ) 拠点機関:	シラパコーン大学
(ミャンマー) 拠点機関:	マンダレー工科大学

2. 研究交流課題名

(和文): メコン川流域国における文化遺産の保存活用学の形成

(交流分野: 文化財科学)

(英文): Establishment of the Network for Safeguarding and Development of the Cultural Heritage in the Mekong Basin Countries

(交流分野: Heritage Science)

研究交流課題に係るホームページ: <http://mekong.lah-waseda.jp>

3. 採用期間

平成 25 年 4 月 1 日 ~ 平成 28 年 3 月 31 日

(3 年度目)

4. 実施体制

日本側実施組織

拠点機関: 早稲田大学

実施組織代表者 (所属部局・職・氏名): 早稲田大学・総長・鎌田薫

コーディネーター (所属部局・職・氏名): 早稲田大学理工学術院・准教授・小岩正樹

協力機関: 東京大学、奈良文化財研究所、東京文化財研究所

事務組織: 早稲田大学国際部国際課

相手国側実施組織 (拠点機関名・協力機関名は、和英併記願います。)

(1) 国名: カンボジア

拠点機関: (英文) Royal University of Fine Art

(和文) プノンペン王立芸術大学

コーディネーター (所属部局・職・氏名) : (英文) Faculty of Architecture and Urbanism ・
Dean (Professor) ・CHHING Chhommony

協力機関 : (英文) APSARA Authority (Authority for Protection and Management of Angkor
and the Region of Siem Reap)

(和文) アプサラ機構

(英文) Norton University

(和文) ノートン大学

(英文) Ministry of Culture and Fine Arts

(和文) 文化芸術省

(2) 国名 : ベトナム

拠点機関 : (英文) Hue University

(和文) フエ大学

コーディネーター (所属部局・職・氏名) : (英文) Department of Architecture, Hue
University of Science ・Lecturer ・NGUYEN Tu Nhu

協力機関 : (英文) Hue Monuments Conservation Center

(和文) フエ遺跡保存センター

(3) 国名 : ラオス

拠点機関 : (英文) National University of Laos

(和文) ラオス国立大学

コーディネーター (所属部局・職・氏名) : (英文) Faculty of Architecture ・Associate
Professor ・CHITHPANYA Soukanh

(4) 国名 : タイ

拠点機関 : (英文) Silpakorn University

(和文) シラパコーン大学

コーディネーター (所属部局・職・氏名) : (英文) Faculty of Archaeology ・Associate
Professor ・SURAPOL Natapintu

協力機関 : (英文) Ubon Ratchathani University

(和文) ウボン・ラチャタニ大学

(英文) Chulalongkorn University

(和文) チュラロンコン大学

(英文) Ministry of Culture

(和文) 文化省

(5) 国名：ミャンマー

拠点機関：(英文) Mandalay Technological University

(和文) マンダレー工科大学

コーディネーター(所属部局・職・氏名)：(英文) Department of Architecture, Mandalay Technological University・Head (Professor)・Su Su

協力機関：(英文) Yangon University

(和文) ヤンゴン大学

5. 研究交流目標

5-1. 全期間を通じた研究交流目標

ユネスコ世界遺産には現在約 900 件のサイトが記載されている。185 ヶ国にのぼる条約締結国数からも、最も成功した世界条約の一つといわれ、登録を目指す動きは加熱の一方で、アジア・アフリカ等の途上国や新しい考え方による遺産の記載は増加が予想されている。記載実現のためには、その固有の価値とともに、顕著な普遍的価値の証明や保護体制の構築などが必要であり、また記載を目指す運動自体が、必然的に地球的広がりや人類史的な長期的視点からの遺産と地域の結びつきを見つめ直すきっかけとなる。記載後も遺産の保存活用のための人材育成が必要であり、多角的な国際協力体制の実現が求められている。環境・災害・食糧・資源・格差・紛争等の 21 世紀的世界の危機の深刻化の中で、遺産研究が地域や国の歴史文化の理解にとって不可欠であり、その保存・再生が疲弊した社会の復興の礎となり、人々の精神的一体性の源泉である公共空間回復に寄与すること、そして保護のための国際協調活動が、国際交流と平和構築に大きな役割を果たすことの期待がその背景にある。申請者らはこれまでにカンボジアやベトナムを中心として調査研究・保存・修復と、災害から地域や文化遺産を救済し、復興させることにより、高い評価を得た活動実績がある。これらの実績を基礎として、メコン川流域の諸国においてその地域的背景のもとに文化遺産の保存活用学を創成することを目標とする。同地域には、歴史・地理的背景を共有する多くの文化遺産保存事業サイト、そして将来的に世界遺産リスト申請の可能性があるサイトやそれと同等の歴史的価値を有するサイトと密接かつ多角的な協力のもとに連携した本拠点を中心に国際的な教育研究のネットワークを構築し、高度な専門性と豊かな構想力を持ち、文化遺産の保存を核とした参加・持続型社会の構築を担う人材の育成を行うとするものである。

5-2. 平成 27 年度研究交流目標

<研究協力体制の構築>

文化遺産の保存活用をめぐる各国の固有かつ主要な研究課題に対する日本と各国拠点機関の二国間協力を基礎として、メコン川流域全体に共通して取り組むべき研究協力体制を同時に構築する。平成 27 年度は、初年度より関係協力体制を強めてきたカンボジアとの体制をより強化するとともに、同国内で 2 回のセミナーを開催することで、参加国相互の研究協力体制のさらなるネットワーク構築・強化・発展を行うことを目指す。

<学術的観点>

各国各地域とも、各々の文化遺産の保存および活用方法には伝統的、社会的特質がある。それを学術的に明らかにするとともに、特に保存と活用の関係について、共通する考え方や手法について議論する中で、メコン川流域に共通する文化遺産の保存活用学の構築に向けて、相互協力の方向を集約する。特に、初年度より継続的にセミナーを開催してきたカンボジアでの2回のセミナーでは、古代から近代の文化遺産と現代の開発の接点となっているシェムリアップを事例に、メコン川流域共通の文化的背景と地域固有の文化的背景の比較を通じた学術交流と、その成果に基づいた文化遺産の保存活用の可能性を明らかにすることを目指す。一方で、「メコン川」の概念を最上流域の中国南部まで広げることで、その文化的広がりと重要性を明らかにし、初年度に検討した全体的問題点・課題点をさらに深化・発展させて検討することを旨とする。

<若手研究者育成>

研究交流に若手研究者の参加を積極的に推進し、調査現場やセミナー等での議論、さらにフォーラム誌の発行企画、及びそこへの投稿を通して、彼らの育成をはかる。平成27年度は、カンボジアで、参加国の学術機関の研究者を中心に、保存修復の現場技術者、さらには行政機関の文化遺産担当者、民間の開発事業担当者まで、多方面から文化遺産の保存活用に携わる若手人材の参加を促すことで、文化遺産の保存活用学の形成を通じた人的ネットワーク形成と多角的視点の養成、そして実践的な学術研究活動発表の場の提供を行うことを目指す。

<その他（社会貢献や独自の目的等）>

平成27年度も前年度までの目標を継続し、セミナー及びフォーラム誌の発行を中核として、各国の固有性と地域の共通性の課題に、各々の社会に意識を高めることを目標とする。特に、各セミナー成果のオンライン公開をはじめとして、本事業の内容を広く社会一般に公開することで、文化遺産の現状、課題、及びその可能性を認知してもらえらる機会を設ける。

6. 平成27年度研究交流成果

（交流を通じての相手国からの貢献及び相手国への貢献を含めてください。）

6-1 研究協力体制の構築状況

平成27年度は本事業最終年度に当たり、平成25年度～平成26年度の研究協力体制の構築の成果を基に、カンボジア側と日本側機関との研究協力体制の強化、及び当該国で開催するセミナーを通して参加国相互の研究協力体制のネットワーク構築・強化を行った。

具体的には、通年で参加相手国との定期的な文化遺産の実地調査、ワークショップまたは成果発表等を通じた共同研究交流を図りつつ、カンボジアでの3回のセミナー（整理番号S-1：2015年8月開催、整理番号S-2：2015年12月開催、整理暗号S-3：2015年12月開催）において、参加国側と日本側、及び参加国間同士の相互連携の体制を強化した。特に、カンボジア・シェムリアップで実施した2回のセミナー（整理番号S-1及びS-2）により、オ

ールドマーケットを中心としたシェムリアップ市街の文化遺産の保存活用を地域住民と企業の技術者または専門家にも積極的に参加を促し、文化遺産防災の観点から国際協力の可能性を探ることで、住民から企業、学術機関、地方行政の総合的な協力展開が可能となった。また、カンボジア・プノンペンでのセミナー（整理番号 S-3）では、全参加国による各国の文化遺産保存活用の課題を共有・検討することで、メコン川流域全体での協力体制の構築とその強化を行うことができた。

以上のように、本年はこれまでの協力体制を基に、より具体的な世界遺産都市シェムリアップという個別事例とメコン川全域とその周辺域という総合的視点を通して、日本と相手国の二国間関係のみならず、全参加国による各国の文化遺産保存活用の課題を共有・検討することで、例えばタイの文化遺産についてのシラパコーン大学が独自にワークショップを開催し、当該ネットワークの日本以外の参加大学がそれに参加し、議論を深めるなどの相手国間の相互連携強化を図ることができ、平成 28 年度開始の研究拠点形成事業（B. アジア・アフリカ学術基盤形成型）「メコン川流域国における文化遺産の保存活用学の形成」（以下、「本事業第 2 フェーズ」）の基礎を確実に構築することができた。

6-2 学術面の成果

各国各地域とも、各々の文化遺産の保存および活用方法には伝統的、社会的特質がある。本事業では、3 年間の活動を通してこの点を学術的に明らかにし、文化遺産の保存活用学を構築することを目指している。

最終年度となる平成 27 年度は、前 2 年間の共同研究及びセミナーの成果を統合すべく、参加国との共同研究を継続するとともに、文化遺産保存活用の国際協力の仕組みが参加国の中で比較的進んでいると考えられるカンボジアで 3 回のセミナーを開催した。一方で、「メコン川」の概念を最上流域の中国南部まで広げることで、総合的な比較研究の実施に努めた。

共同研究では、カンボジア、ベトナム、ラオス、タイ、ミャンマーの 5 ヶ国の文化遺産で、3 年間にわたり継続的な現地実地調査、資料調査、研究成果の収集を行うことで、各国の文化遺産が置かれている現状とその変遷がほぼ明らかになりつつある。特に、平成 27 年度は、カンボジアではアンコール遺跡群と近代フランス統治時代の住宅建築、ベトナムではフエ阮朝の王宮建築及び皇帝陵と上流貴族住宅、ラオスではルアンプラバン、タイではアユタヤ遺跡群、ミャンマーではピュー遺跡とバガン遺跡での実地調査において、相手国コーディネーターを中心とした調査研究の成果の共有を行うとともに、相手国の若手研究者や学生らの参加も積極的に推進した。また、メコン川の最上流域地域とその周縁地域に該当する中国南部の雲南省、貴州省の現地調査も行い、各地の特異な建築様式・技術等の比較研究から、メコン川流域各国の文化的広がりと重要性を明らかにし、中央と周縁地域の関係性、各地域の受容とその展開の特質が、少しずつ解明されつつあるといえる。こうした広域的な調査研究活動より、本事業第 2 フェーズにおいて主眼となる文化遺産を擁する「世界遺産都市」の保存活用のあり方を検討するための重要な基礎資料を得ることができたといえる。

また、平成 26 年度のカンボジア・シェムリアップでのセミナー成果を基に、平成 27 年度に同都市で実施した 2 回のセミナー（整理番号 S-1 及び整理番号 S-2）では、近代遺産の保存活用の問題の中で、特に早急の対策が必要と考えられる文化遺産防災の観点に重点を置いて実施した。本件は、共同研究との連携で、メコン川流域の文化遺産を有する市街地における持続可能な防災対策の例として、調査研究活動からの事業化という本研究課題でも特に実践的な内容であり、様々な展開が可能であることが見込まれ、大きな成果が出ているといえる。

上記に加え、平成 25 年度から引き続き、早稲田大学にて行っている既存の各種事業（カンボジアやベトナム）と情報共有等の学術的な連携も進めた。

以上より、メコン川流域とその周辺地域の広域的な調査研究を行うとともに、セミナーにおいてより個別的・具体的事例を扱うことで、現在の各遺跡が置かれている異なる状況を踏まえた学術活動を行い、本事業第 2 フェーズへ向けた、各国の文化遺産の保存活用の現況把握と、相手国側との学術情報の共有を積極的に行った。

6-3 若手研究者育成

若手研究者育成では、本事業への参加を積極的に推進し、共同研究での現場調査やセミナー等での議論、さらにセミナー・プロシーディングや本事業に関連する研究会誌の発行と、そこへの投稿を通して、彼らの育成を図ることを事業全体の目標としている。

今年度は目標に掲げたとおり、セミナーにおいては各回共に若手研究者の発表を推進し、報告書等の研究会誌への論文掲載を積極的に行い、参加研究者間のみならず、セミナー開催地の学生や関連機関にも積極的に参加を促すことで、将来当該分野で活躍が見込まれる研究者間の交流を促した。共同研究においても、既存の早稲田大学の他事業との連携を図り、より広く若手研究者の活動の場を提供できるよう、現地調査への派遣や実地指導等の開催に努めた。昨年度にセミナーを行ったサンボー・プレイ・クック遺跡では、別事業予算による約 2 週間の大学生・若手研究者を対象とした都市遺跡の発掘調査、建築遺構の実測調査をもとに図面・報告書の作成、レンガ遺構の修復工事、考古遺跡の埋め戻し前の住民への説明会の実施など、文化遺産保存活用に関する技術的な研修が実現し、本事業からも協力を行った。また、国際会議や国内学会での発表も推進することで、多くの発表の機会を提供できるように努めた。

以上のように、参加国の学術機関の研究者を中心に、保存修復の現場技術者、さらに行政機関の文化遺産担当者まで、多方面から文化遺産の保存活用に携わる若手人材の参加を促すことで、文化遺産の保存活用学の形成を通じた人的ネットワーク形成と多角的視点の養成、そして実践的な研究発表の場の提供を確実に行うことができた。さらに、各セミナーでは、開催国の学生のみならず、開催国以外からも参加研究者の所属する研究機関から自主的な若手研究者の参加があり、本事業の取り組みが各国で徐々に根付いてきていることが伺える。

6-4 その他（社会貢献や独自の目的等）

各種成果においては、セミナー・プロシーディング及び調査研究成果等の報告集の発行を主軸とし、各国の固有性と地域の共通性の課題について、日本側及び参加国側において文化遺産の保存活用に対する意識を高めることを継続して図った。

また、セミナーにおいては、地域住民にも自らの街の文化遺産の保存活用の問題について考えてもらうべく、住民参加型のワークショップを積極的に開催し、様々な視点からの意見の集約に努め、成果をまとめた。

6-5 今後の課題・問題点

平成25年度からの3年間の本事業で、メコン流域の参加国との研究協力体制は構築されつつある。しかしながら、文化遺産保存活用の分野の基礎的・理論的活動への支援は、政府、民間とも、未だに極めて乏しいことが現状であり、今後は、研究者相互の交流と相手国内での本分野に対する認知度・重要性を広め、各国が連携して、定例国際会議制度を実施に移すための枠組構築の本格的作業を進めることが重要であるといえる。

6-6 本研究交流事業により発表された論文等

(1) 平成27年度に学術雑誌等に発表した論文・著書 5本

うち、相手国参加研究者との共著 0本

(2) 平成27年度の国際会議における発表 16件

うち、相手国参加研究者との共同発表 3件

(3) 平成27年度の国内学会・シンポジウム等における発表 4件

うち、相手国参加研究者との共同発表 0件

(※ 「本事業名が明記されているもの」を計上・記入してください。)

(※ 詳細は別紙「論文リスト」に記入してください。)

7. 平成27年度研究交流実績状況

7-1 共同研究

整理番号	R-1	研究開始年度	平成25年度	研究終了年度	平成27年度
研究課題名	(和文) メコン川流域国における文化遺産の保存活用学の形成				
	(英文) Establishment of the Network for Safeguarding and Development of the Cultural Heritage in the Mekong Basin Countries				
日本側代表者 氏名・所属・職	(和文) 小岩正樹・早稲田大学理工学術院・准教授				
	(英文) KOIWA Masaki・Faculty of Science and Engineering, Waseda University・Associate Professor				
相手国側代表者 氏名・所属・職	(英文) (カンボジア) CHHING Chhommony・Faculty of Architecture and Urbanism, Royal University of Fine Art・Dean				
	(ベトナム) NGUYEN Tu Nhu・Department of Architecture, Hue University of Science・Lecturer				
	(ラオス) CHITHPANYA Soukanh・Faculty of Architecture, National University of Laos・Associate Professor				
	(タイ) SURAPOL Natapintu・Faculty of Archaeology, Silpakorn University・Associate Professor				
	(ミャンマー) Su Su, Department of Architecture, Mandalay Technological University・Head (Professor)				
参加者数	日本側参加者数	16名			
	(カンボジア) 側参加者数	6名			
	(ベトナム) 側参加者数	3名			
	(ラオス) 側参加者数	2名			
	(タイ) 側参加者数	4名			
	(ミャンマー) 側参加者数	2名			
27年度の研究 交流活動	<p>各国（カンボジア、ベトナム、ラオス、タイ、ミャンマー）の文化遺産が抱える問題点を明らかにするために、日本側コーディネーターらが継続して中心的課題である文化遺産の現場を当該国コーディネーターらと共同で調査を実施した。特に、カンボジアではアンコール遺跡群と近代フランス統治時代の住宅建築、ベトナムではフエ阮朝の王宮建築及び皇帝陵と上流貴族住宅、ラオスではルアンプラバン、タイではアユタヤ遺跡群、ミャンマーではピュー遺跡とバガン遺跡の各文化遺産で現況把握のための悉皆調査等の現地調査を行い、相手国コーディネーターらの既存調査研究の成果共有を行った。また、日本側参加者の相手国への渡航において、文化遺産保存活用学の基礎・理論の講義を通じた意見交換等（ベトナム、3日間、1人派遣）を行うことで、相手国の学生・若手研究者と</p>				

	<p>の交流も積極的に行った。</p> <p>また、カンボジアでの 3 回のセミナーと連動し、世界遺産都市シェムリアップを事例として、詳細な現場調査、文化遺産と開発の調和手法及び防災対策の検討を行い、参加相手国の有する世界遺産の比較研究を基に、実地調査で得た情報を加味した議論を行うことで、急速に開発が進むアジアの各地の世界遺産都市への展開の可能性とその問題点の検討を行った。</p> <p>さらに、メコン川の最上流域までも含めた包括的なメコン川流域の文化遺産保存活用を明らかにするために、中国南部（雲南省・貴州省）での調査も実施した。</p>
<p>27 年度の研究 交流活動から得 られた成果</p>	<p>当該研究課題の各国個別の具体的な課題を明示、それらの課題を統括し、今後のメコン川流域国が協力して取り組んでいくべき共通の課題として、各文化遺産の固有の価値とともに、顕著な普遍的価値の証明や保護体制の構築とそれらを担う次世代の人材の育成が必要であり、その実現のための基礎的・理論的分野への理解の促進が必要であることが明らかとなった。</p> <p>また、カンボジアの 3 回のセミナーと連携した研究成果より、「世界遺産都市」としての課題解決に向けて、参加相手国間と日本の研究協力体制に加えて参加相手国の文化遺産の保存修復現場を加えたより実践的かつ多角的な協力体制のさらなる強化と、文化遺産保存活用学形成へ向けた実線的枠組みの構築、そして、平成 28 年度からの研究拠点事業への基本枠組の再確認と継続実施の同意を得ることができた。</p>

7-2 セミナー

整理番号	S-1
セミナー名	<p>(和文) 日本学術振興会研究拠点形成事業「メコン川流域国における文化遺産の保存活用学の形成—防災面から見たアンコール遺跡とシェムリアップ歴史地区を通じた保存活用の現在の課題の検討とその確認—」</p> <p>(英文) JSPS Core-to-Core Program “Establishment of the Network for Safeguarding and Development of the Cultural Heritage in the Mekong Basin Countries - Current Issues of Conservation and Restoration Activities and its’ Disaster Prevention in World Heritage Site Angkor and Siem Reap Historical District- “</p>
開催期間	平成27年8月28日 ～ 平成27年9月2日 (6日間)
開催地(国名、都市名、会場名)	<p>(和文) カンボジア、シェムリアップ、ユネスコ・JASA シェムリアップ事務所 (バイヨン・インフォメーション・センター) 及びプレア・プロム・ラット寺院</p> <p>(英文) Cambodia, Siem Reap, UNESCO/JASA Siem Reap Office (Bayon Information Center) and Wat Preah Prom Rath</p>
日本側開催責任者 氏名・所属・職	<p>(和文) 小岩正樹・早稲田大学理工学術院・准教授</p> <p>(英文) KOIWA Masaki・Faculty of Science and Engineering, Waseda University・Associate Professor</p>
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外で開催の場合)	(英文) SO Sokuntheary・Norton University・Professor

参加者数

派遣先 派遣	セミナー開催国 (カンボジア)	
	A	B
日本 (人/人日)	3/ 11	8
カンボジア (人/人日)	2/ 10	24
ベトナム (人/人日)	0/ 0	0
ラオス (人/人日)	0/ 0	0
タイ (人/人日)	0/ 0	0
ミャンマー (人/人日)	0/ 0	0
合計 (人/人日)	5/ 21	32

- A. 本事業参加者 (参加研究者リストの研究者等)
- B. 一般参加者 (参加研究者リスト以外の研究者等)

※日数は、出張期間 (渡航日、帰国日を含めた期間) としてください。これによりがたい場合は、備考欄を設け、注意書きを付してください。

<p>セミナー開催の目的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度までの調査研究成果の再確認。 ・カンボジアにおける文化遺産の歴史的、社会的現状の確認。 ・保存活用のための学術研究上の課題の現状。 ・当該国において文化遺産の保存活用の社会的位置付けと意義。 ・文化遺産保存活用学形成のための当該地域の連携上の可能性。 ・世界遺産アンコール遺跡とシェムリアップ歴史地区の防災対策の基礎的課題の検討 <p>以上の各点を、各参加者の発表を基に討議し、今後の解決のための協力のあり方を提案する。</p>																									
<p>セミナーの成果</p>	<p>カンボジアにおける文化遺産の歴史的・基礎的学術研究上の現状と問題点を明らかとした上で、地域のコミュニティを生かした保存活用策を策定するために、専門家のみならず住民も参加するワークショップの開催、ハザードマップ作成へ向けた基本情報の集約等の実践的プログラムを組み込んだセミナーを開催することで、世界遺産アンコール遺跡とシェムリアップ歴史地区における防災対策の基本的方針確立のための各種データとそれらを踏まえた検討課題が揃い、「シェムリアップ/アンコール」地域全体としての防災基本方針を揃えることができた。</p> <p>また、参加国間でこれら各種データ等の共有を進め、保存活用手法の他地域への展開可能性を協議することで、各国間の共通理解が得られ、カンボジアにおける研究体制及び参加国間の相互協力のさらなる強化と発展を行うことができた。</p>																									
<p>セミナーの運営組織</p>	<p>早稲田大学国際部、理工学総合研究所の事務的支援の基に、運営の実務は、相手国責任者の所属大学であるノートン大学と早稲田大学総合研究機構ユネスコ世界遺産研究所および創造理工学部建築学科小岩正樹研究室がその緊密な協力のもとに担当した。</p>																									
<p>開催経費 分担内容 と金額</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="371 1541 571 1937"> <p>日本側</p> </td> <td data-bbox="571 1541 1380 1937"> <table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国内旅費（日本側移動）</td> <td>6,480 円</td> </tr> <tr> <td>外国旅費（日本側）</td> <td>306,585 円</td> </tr> <tr> <td>外国旅費（日本以外かつカンボジア除く）</td> <td>0 円</td> </tr> <tr> <td>謝金</td> <td>0 円</td> </tr> <tr> <td>備品・消耗品購入費</td> <td>32,235 円</td> </tr> <tr> <td>その他経費</td> <td>95,910 円</td> </tr> <tr> <td>外国旅費・謝金等に係る消費税</td> <td>24,526 円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">合計</td> <td>465,736 円</td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="371 1937 571 2139"> <p>（カンボジア）側</p> </td> <td data-bbox="571 1937 1380 2139"> <table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>セミナー会場提供</td> </tr> <tr> <td>カンボジア国内研究者旅費</td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> </table>	<p>日本側</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国内旅費（日本側移動）</td> <td>6,480 円</td> </tr> <tr> <td>外国旅費（日本側）</td> <td>306,585 円</td> </tr> <tr> <td>外国旅費（日本以外かつカンボジア除く）</td> <td>0 円</td> </tr> <tr> <td>謝金</td> <td>0 円</td> </tr> <tr> <td>備品・消耗品購入費</td> <td>32,235 円</td> </tr> <tr> <td>その他経費</td> <td>95,910 円</td> </tr> <tr> <td>外国旅費・謝金等に係る消費税</td> <td>24,526 円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">合計</td> <td>465,736 円</td> </tr> </tbody> </table>	内容	金額	国内旅費（日本側移動）	6,480 円	外国旅費（日本側）	306,585 円	外国旅費（日本以外かつカンボジア除く）	0 円	謝金	0 円	備品・消耗品購入費	32,235 円	その他経費	95,910 円	外国旅費・謝金等に係る消費税	24,526 円	合計	465,736 円	<p>（カンボジア）側</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>セミナー会場提供</td> </tr> <tr> <td>カンボジア国内研究者旅費</td> </tr> </tbody> </table>	内容	セミナー会場提供	カンボジア国内研究者旅費
<p>日本側</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国内旅費（日本側移動）</td> <td>6,480 円</td> </tr> <tr> <td>外国旅費（日本側）</td> <td>306,585 円</td> </tr> <tr> <td>外国旅費（日本以外かつカンボジア除く）</td> <td>0 円</td> </tr> <tr> <td>謝金</td> <td>0 円</td> </tr> <tr> <td>備品・消耗品購入費</td> <td>32,235 円</td> </tr> <tr> <td>その他経費</td> <td>95,910 円</td> </tr> <tr> <td>外国旅費・謝金等に係る消費税</td> <td>24,526 円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">合計</td> <td>465,736 円</td> </tr> </tbody> </table>	内容	金額	国内旅費（日本側移動）	6,480 円	外国旅費（日本側）	306,585 円	外国旅費（日本以外かつカンボジア除く）	0 円	謝金	0 円	備品・消耗品購入費	32,235 円	その他経費	95,910 円	外国旅費・謝金等に係る消費税	24,526 円	合計	465,736 円							
内容	金額																									
国内旅費（日本側移動）	6,480 円																									
外国旅費（日本側）	306,585 円																									
外国旅費（日本以外かつカンボジア除く）	0 円																									
謝金	0 円																									
備品・消耗品購入費	32,235 円																									
その他経費	95,910 円																									
外国旅費・謝金等に係る消費税	24,526 円																									
合計	465,736 円																									
<p>（カンボジア）側</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>セミナー会場提供</td> </tr> <tr> <td>カンボジア国内研究者旅費</td> </tr> </tbody> </table>	内容	セミナー会場提供	カンボジア国内研究者旅費																						
内容																										
セミナー会場提供																										
カンボジア国内研究者旅費																										
<p>11</p>																										

整理番号	S-2
セミナー名	(和文) 日本学術振興会研究拠点形成事業「メコン川流域国における文化遺産の保存活用学の形成—アンコール遺跡とシェムリアップ歴史地区のハザードマップ作成と防災対策へ向けた課題と展望—」
	(英文) JSPS Core-to-Core Program “Establishment of the Network for Safeguarding and Development of the Cultural Heritage in the Mekong Basin Countries -Hazard Map and Issues on Disaster Prevention in World Heritage Site Angkor and Siem Reap Historical District- “
開催期間	平成27年12月25日 ~ 平成27年12月27日 (3日間)
開催地(国名、都市名、会場名)	(和文) カンボジア、シェムリアップ、ユネスコ・JASA シェムリアップ事務所(バイヨン・インフォメーション・センター)及びプレア・プロム・ラット寺院
	(英文) Cambodia, Siem Reap, UNESCO/JASA Siem Reap Office (Bayon Information Center) and Wat Preah Prom Rath
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) 小岩正樹・早稲田大学理工学術院・准教授
	(英文) KOIWA Masaki・Faculty of Science and Engineering, Waseda University・Associate Professor
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外で開催の場合)	(英文) SO Sokuntheary・Norton University・Professor

参加者数

派遣先 派遣	セミナー開催国 (カンボジア)	
	A.	B.
日本 (人/人日)	5/ 15	5
カンボジア (人/人日)	3/ 9	23
ベトナム (人/人日)	1/ 3	5
ラオス (人/人日)	2/ 6	0
タイ (人/人日)	2/ 6	0
ミャンマー (人/人日)	1/ 3	0
合計 (人/人日)	14/ 42	33

- A. 本事業参加者(参加研究者リストの研究者等)
 B. 一般参加者(参加研究者リスト以外の研究者等)

※日数は、出張期間(渡航日、帰国日を含めた期間)としてください。これによりがたい場合は、備考欄を設け、注意書きを付してください。

<p>セミナー開催の目的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カンボジアにおける文化遺産の歴史的、社会的現状の確認。 ・保存活用のための学術研究上の課題の現状。 ・当該国において文化遺産の保存活用の社会的位置付けと意義。 ・文化遺産保存活用学形成のための当該地域の連携上の可能性。 ・世界遺産アンコール遺跡とシェムリアップ歴史地区のハザードマップ作成。 ・同エリアの防災対策へ向けた実践的課題の検討。 <p>以上の各点を、各参加者の発表を基に討議し、今後の解決のための協力のあり方を提案する。</p>																									
<p>セミナーの成果</p>	<p>セミナー（S-1）の成果をもとに、メコン川流域各国の参加者も交えて、住民参加型ワークショップの開催、世界遺産アンコール遺跡とシェムリアップ歴史地区のハザードマップ作成へ向けた情報集約、防災対策を踏まえた観光、開発、保存の調和手法と他地域への適応可能性の検討を行うことにより、セミナー（S-1）の全体基本方針を踏まえて、「シェムリアップ中心の歴史地区」における防災対策の具体的な方針を確立することができた。</p> <p>メコン川流域各国が共同で「世界遺産都市」の課題を、シェムリアップを事例に取り組みとともに、今後の展開の可能性の足がかりを確立できた。</p> <p>また、カンボジアにおける産学官民の協力及び参加国間の相互協力のさらなる強化と発展も行うことができた。</p>																									
<p>セミナーの運営組織</p>	<p>早稲田大学国際部、理工学総合研究所の事務的支援の基に、運営の実務は、相手国責任者の所属大学であるノートン大学と早稲田大学総合研究機構ユネスコ世界遺産研究所および創造理工学部建築学科小岩正樹研究室がその緊密な協力のもとに担当した。</p>																									
<p>開催経費 分担内容 と金額</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="373 1527 568 1928"> <p>日本側</p> </td> <td data-bbox="568 1527 1374 1928"> <table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国内旅費（日本側移動）</td> <td>5,390 円</td> </tr> <tr> <td>外国旅費（日本側）</td> <td>491,620 円</td> </tr> <tr> <td>外国旅費（日本以外かつカンボジア除く）</td> <td>344,420 円</td> </tr> <tr> <td>謝金</td> <td>0 円</td> </tr> <tr> <td>備品・消耗品購入費</td> <td>0 円</td> </tr> <tr> <td>その他経費</td> <td>36,781 円</td> </tr> <tr> <td>外国旅費・謝金等に係る消費税</td> <td>39,329 円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">合計</td> <td>917,540 円</td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="373 1928 568 2112"> <p>（カンボジア）側</p> </td> <td data-bbox="568 1928 1374 2112"> <table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>セミナー会場提供</td> </tr> <tr> <td>カンボジア国内研究者旅費</td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> </table>	<p>日本側</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国内旅費（日本側移動）</td> <td>5,390 円</td> </tr> <tr> <td>外国旅費（日本側）</td> <td>491,620 円</td> </tr> <tr> <td>外国旅費（日本以外かつカンボジア除く）</td> <td>344,420 円</td> </tr> <tr> <td>謝金</td> <td>0 円</td> </tr> <tr> <td>備品・消耗品購入費</td> <td>0 円</td> </tr> <tr> <td>その他経費</td> <td>36,781 円</td> </tr> <tr> <td>外国旅費・謝金等に係る消費税</td> <td>39,329 円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">合計</td> <td>917,540 円</td> </tr> </tbody> </table>	内容	金額	国内旅費（日本側移動）	5,390 円	外国旅費（日本側）	491,620 円	外国旅費（日本以外かつカンボジア除く）	344,420 円	謝金	0 円	備品・消耗品購入費	0 円	その他経費	36,781 円	外国旅費・謝金等に係る消費税	39,329 円	合計	917,540 円	<p>（カンボジア）側</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>セミナー会場提供</td> </tr> <tr> <td>カンボジア国内研究者旅費</td> </tr> </tbody> </table>	内容	セミナー会場提供	カンボジア国内研究者旅費
<p>日本側</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国内旅費（日本側移動）</td> <td>5,390 円</td> </tr> <tr> <td>外国旅費（日本側）</td> <td>491,620 円</td> </tr> <tr> <td>外国旅費（日本以外かつカンボジア除く）</td> <td>344,420 円</td> </tr> <tr> <td>謝金</td> <td>0 円</td> </tr> <tr> <td>備品・消耗品購入費</td> <td>0 円</td> </tr> <tr> <td>その他経費</td> <td>36,781 円</td> </tr> <tr> <td>外国旅費・謝金等に係る消費税</td> <td>39,329 円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">合計</td> <td>917,540 円</td> </tr> </tbody> </table>	内容	金額	国内旅費（日本側移動）	5,390 円	外国旅費（日本側）	491,620 円	外国旅費（日本以外かつカンボジア除く）	344,420 円	謝金	0 円	備品・消耗品購入費	0 円	その他経費	36,781 円	外国旅費・謝金等に係る消費税	39,329 円	合計	917,540 円							
内容	金額																									
国内旅費（日本側移動）	5,390 円																									
外国旅費（日本側）	491,620 円																									
外国旅費（日本以外かつカンボジア除く）	344,420 円																									
謝金	0 円																									
備品・消耗品購入費	0 円																									
その他経費	36,781 円																									
外国旅費・謝金等に係る消費税	39,329 円																									
合計	917,540 円																									
<p>（カンボジア）側</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>セミナー会場提供</td> </tr> <tr> <td>カンボジア国内研究者旅費</td> </tr> </tbody> </table>	内容	セミナー会場提供	カンボジア国内研究者旅費																						
内容																										
セミナー会場提供																										
カンボジア国内研究者旅費																										
<p>13</p>																										

整理番号	S-3
セミナー名	<p>(和文) 日本学術振興会研究拠点形成事業「メコン川流域国における文化遺産の保存活用学の形成—世界遺産と世界遺産都市の課題：東南アジアメコン川流域の古都サミットの連携を求めて（シエムリアップ、フエ、チャンパサック、スコータイ、アユタヤ、ピューを中心に）—」</p> <p>(英文) JSPS Core-to-Core Program “Establishment of the Network for Safeguarding and Development of the Cultural Heritage in the Mekong Basin Countries - Issues, Problems and Future Challenges of World Heritage Site and World Heritage City: Making a Key Step towards Close Cooperation on Historic City Summit in Southeast Asian Countries focusing on Siem Reap, Hue, Champasak, Sukhothai, Ayutthaya and Pyu - “</p>
開催期間	平成27年12月22日 ～ 平成27年12月24日（3日間）
開催地(国名、都市名、会場名)	<p>(和文) カンボジア、プノンペン、ノートン大学</p> <p>(英文) Cambodia, Phnom Penh, Norton University</p>
日本側開催責任者 氏名・所属・職	<p>(和文) 小岩正樹・早稲田大学理工学術院・准教授</p> <p>(英文) KOIWA Masaki・Faculty of Science and Engineering, Waseda University・Associate Professor</p>
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外で開催の場合)	(英文) SO Sokuntheary・Norton University・Professor

参加者数

派遣先	セミナー開催国 (カンボジア)	
派遣	A.	B.
日本 〈人/人日〉	5/ 15	0
カンボジア 〈人/人日〉	2/ 6	36
ベトナム 〈人/人日〉	1/ 3	5
ラオス 〈人/人日〉	2/ 6	0
タイ 〈人/人日〉	2/ 6	0
ミャンマー 〈人/人日〉	1/ 3	0
合計 〈人/人日〉	13/ 39	41

- A. 本事業参加者（参加研究者リストの研究者等）
B. 一般参加者（参加研究者リスト以外の研究者等）

※日数は、出張期間（渡航日、帰国日を含めた期間）としてください。これによりがたい場合は、備考欄を設け、注意書きを付してください。

<p>セミナー開催の目的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業3年間の各国の拠点・協力機関による文化遺産の保存活用事例の成果と今後の展望 ・本事業のまとめと今後の展望、次年度以降の展開の検討。 ・メコン川流域国における文化遺産保存活用の枠組の再検討。 ・メコン川流域各国の世界遺産都市の協力体制構築の検討。 <p>以上の各点を、各参加者の発表を基に討議し、今後の解決のための協力のあり方を提案する。</p>																			
<p>セミナーの成果</p>	<p>セミナー（S-2）と連動して本セミナーを開催し、メコン川流域各国の文化遺産保存活用の現状とこれまでの当該事業の成果の集約を行い、メコン川流域各国の文化遺産保存活用の現場を踏まえた「学」の役割と意義をより明確にするとともに、国際的枠組ユネスコ世界遺産と日本とメコン川流域国が中心となって体制化を目指す国際定例会議制度（古都サミット）の役割と意義についても検討することができ、平成28年度以降の協力体制の再確認とその強化を行った。</p>																			
<p>セミナーの運営組織</p>	<p>早稲田大学国際部、理工学総合研究所の事務的支援の基に、運営の実務は、相手国責任者の所属大学であるノートン大学と早稲田大学総合研究機構ユネスコ世界遺産研究所および創造理工学部建築学科小岩正樹研究室がその緊密な協力のもとに担当した。</p>																			
<p>開催経費 分担内容 と金額</p>	<p>日本側</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">内容</th> <th style="text-align: center;">金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国内旅費（日本側移動）</td> <td style="text-align: right;">2,580 円</td> </tr> <tr> <td>外国旅費（日本側）</td> <td style="text-align: right;">326,037 円</td> </tr> <tr> <td>外国旅費（日本以外かつカンボジア除く）</td> <td style="text-align: right;">362,420 円</td> </tr> <tr> <td>謝金</td> <td style="text-align: right;">0 円</td> </tr> <tr> <td>備品・消耗品購入費</td> <td style="text-align: right;">0 円</td> </tr> <tr> <td>その他経費</td> <td style="text-align: right;">4,037 円</td> </tr> <tr> <td>外国旅費・謝金等に係る消費税</td> <td style="text-align: right;">26,082 円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">合計</td> <td style="text-align: right;">721,156 円</td> </tr> </tbody> </table>	内容	金額	国内旅費（日本側移動）	2,580 円	外国旅費（日本側）	326,037 円	外国旅費（日本以外かつカンボジア除く）	362,420 円	謝金	0 円	備品・消耗品購入費	0 円	その他経費	4,037 円	外国旅費・謝金等に係る消費税	26,082 円	合計	721,156 円
内容	金額																			
国内旅費（日本側移動）	2,580 円																			
外国旅費（日本側）	326,037 円																			
外国旅費（日本以外かつカンボジア除く）	362,420 円																			
謝金	0 円																			
備品・消耗品購入費	0 円																			
その他経費	4,037 円																			
外国旅費・謝金等に係る消費税	26,082 円																			
合計	721,156 円																			
	<p>（カンボジア）側</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>セミナー会場提供</td> </tr> <tr> <td>カンボジア国内研究者旅費</td> </tr> </tbody> </table>	内容	セミナー会場提供	カンボジア国内研究者旅費															
内容																				
セミナー会場提供																				
カンボジア国内研究者旅費																				

7-3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）
平成27年度は実施していない。

7-4 中間評価の指摘事項等を踏まえた対応
該当無し。

8. 平成27年度研究交流実績総人数・人日数

8-1 相手国との交流実績

派遣先 派遣元	日	日本	カンボジア	ベトナム	ラオス	タイ	ミャンマー	中国(第三国)	合計
日本	1		3/31 (2/11)	()	()	()	(1/21)	()	3/31 (3/32)
	2		3/48 (2/36)	(2/38)	(1/9)	2/5 ()	()	1/7 ()	6/60 (5/83)
	3		5/52 (3/19)	()	()	()	()	(1/3)	5/52 (4/22)
	4		2/10 (4/48)	(3/21)	()	6/12 (1/2)	1/7 ()	1/6 ()	10/35 (8/71)
	計		13/141 (11/114)	0/0 (5/59)	0/0 (1/9)	8/17 (1/2)	1/7 (1/21)	2/13 (1/3)	24/176 (20/208)
カンボジア	1	()		()	()	()	()	()	0/0 (0/0)
	2	()		()	()	()	()	()	0/0 (0/0)
	3	()		()	()	()	()	()	0/0 (0/0)
	4	()		()	()	()	()	()	0/0 (0/0)
	計	0/0 (0/0)		0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)
ベトナム	1	()	()		()	()	()	()	0/0 (0/0)
	2	()	()		()	()	()	()	0/0 (0/0)
	3	()	1/6 ()		()	()	()	()	1/6 (0/0)
	4	()	()		()	()	()	()	0/0 (0/0)
	計	0/0 (0/0)	1/6 (0/0)		0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	1/6 (0/0)
ラオス	1	()	()	()		()	()	()	0/0 (0/0)
	2	()	()	()		()	()	()	0/0 (0/0)
	3	()	2/12 ()	()		()	()	()	2/12 (0/0)
	4	()	()	()		()	()	()	0/0 (0/0)
	計	0/0 (0/0)	2/12 (0/0)	0/0 (0/0)		0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	2/12 (0/0)
タイ	1	()	()	()	()		()	()	0/0 (0/0)
	2	()	()	()	()		()	()	0/0 (0/0)
	3	()	2/10 ()	()	()		()	()	2/10 (0/0)
	4	()	()	()	()		()	()	0/0 (0/0)
	計	0/0 (0/0)	2/10 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)		0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	2/10 (0/0)
ミャンマー	1	()	()	()	()		()	()	0/0 (0/0)
	2	()	()	()	()		()	()	0/0 (0/0)
	3	()	1/6 ()	()	()		()	()	1/6 (0/0)
	4	()	()	()	()		()	()	0/0 (0/0)
	計	0/0 (0/0)	1/6 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)		0/0 (0/0)	1/6 (0/0)
中国(第三国)	1	()	()	()	()	()		()	0/0 (0/0)
	2	()	()	()	()	()		()	0/0 (0/0)
	3	()	()	()	()	()		()	0/0 (0/0)
	4	()	()	()	()	()		()	0/0 (0/0)
	計	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)		0/0 (0/0)
合計	1	0/0 (0/0)	3/31 (2/11)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (1/21)	0/0 (0/0)	3/31 (3/32)
	2	0/0 (0/0)	3/48 (2/36)	0/0 (2/38)	0/0 (1/9)	2/5 (0/0)	0/0 (0/0)	1/7 (0/0)	6/60 (5/83)
	3	0/0 (0/0)	11/86 (3/19)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (1/3)	11/86 (4/22)
	4	0/0 (0/0)	2/10 (4/48)	0/0 (3/21)	0/0 (0/0)	6/12 (1/2)	1/7 (0/0)	1/6 (0/0)	10/35 (8/71)
	計	0/0 (0/0)	18/176 (11/114)	0/0 (5/59)	0/0 (1/9)	8/17 (1/2)	1/7 (1/21)	2/13 (1/3)	30/212 (20/208)

※各国別に、研究者交流・共同研究・セミナーにて交流した人数・人日数を記載してください。(なお、記入の仕方の詳細については「記入上の注意」を参考にしてください。)

※相手国側マッチングファンドなど、本事業経費によらない交流についても、カッコ書きで記入してください。

8-2 国内での交流実績

1	2	3	4	合計
()	2/2 ()	(1/1)	()	2/2 (1/1)

9. 平成27年度経費使用総額

(単位 円)

	経費内訳	金額	備考
研究交流経費	国内旅費	99,820	
	外国旅費	5,437,158	
	謝金	0	
	備品・消耗品 購入費	70,652	
	その他の経費	532,370	
	外国旅費・謝 金等に係る消 費税	260,000	差分の消費税については本学負担として納税する。
	計	6,400,000	
業務委託手数料		640,000	
合 計		7,040,000	

10. 平成27年度相手国マッチングファンド使用額

本事業は該当しない。